伊藤隆道　「雲形のひろば・光」（上海月湖彫刻公園）
ステンレス114ミリ鏡面パイプによる環境彫刻

撮影　齋藤亮一

2015年11月 会報72号
一般社団法人
日本建築美術工芸協会

回転する３本の鏡面「動く風景」
（上海月湖彫刻公園）
撮影　齋藤亮一

伊藤隆道

1939年　北海道札幌市に生まれる
1962年　東京芸術大学卒業
　　同年から銀座資生堂会館ショウウインドウデザイン手掛ける
1968年頃から野外彫刻展に招待出品　多数の賞を受賞　動く彫刻作品で彫刻家としての評価を得る
1970年　大阪万博　その後沖縄海洋博　つくば博等に参加
1993年　東京芸術大学教授就任　デザイン教育にも携わる　舞台美術も手掛ける
2004年　上海個展　その後中国での展開も加わる　08年上海彫刻公園月湖美術館館長就任
現在　東京芸術大学名誉教授　環境芸術学会名誉会長　　当会会員

CONTENTS

aaca景観シンポジウム「2020東京オリンピック・パラリンピックと都市景観」	岡　房信	3
景観シンポジウムに参加して	田口　淳	4
第186回aacaフォーラム「かたちを奏でる記憶のすすめ」	石垣　健	5
aaca2014「第1回 街に飛び出す作品展」		6~9
会員活動レポート「Perspective 言葉アート〈素ことば〉」	星　素子	10
時代の華一輪	中野献一	11
時代の華一輪　「〈時空間〉をテーマに」	山崎和子	12
来年度aaca企画展「色と形、手の仕事2016 あわい展」	安原竹夫	13
寄稿　木の魅力を伝える　日本建築の美とプロポーション（2）	今里　隆	14~16
調査研究部会レポート「第79回新制作展を通して」	二井　進	17
総務委員会レポート		18
アピアランス		19
新入会員・会員の異動・募金のお願い		20

景観シンポジウム　「2020 東京オリンピック・パラリンピックと都市景観」

岡　房信

景観シンポジウム委員会担当理事

日本建築美術工芸協会会員

平成27年度景観シンポジウム事業の第1弾にあたる頭記のシンポジウムは、去る7月3日（金）にパナソニック汐留ビルのイベントホールで開催されました。今回の事前参加申込は319名、うち125名の方々にはシンポジウム終了後の交流会にも参加申込を頂きました。

当日の朝は激しい雨でしたが、それも昼過ぎには上がって 285 名の来場者をお迎えする事が出来ました。また、交流会の参加者は 115 名でした。来場者の皆さん並びに関係者の皆さんに篤く御礼申し上げます。シンポジウムの内容は会報別冊に譲ることとし、本稿では企画・運営面での工夫を中心に報告させて頂きます。

① テーマ・登壇者について

2020 オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定されて以降、シンポジウム委員会ではこれをテーマとする景観シンポジウムの実施が課題となっていました。他方、主会場となる新国立競技場の設計案に対する批判的な議論も多く、テーマの絞り込みと登壇者の人選は慎重に行う必要がありました。そうした状況の中で、構造デザイナーであり当協会 aaca 賞の審査委員でもある斎藤公男日大名誉教授にご指導をお願いし、その結果、導き出されたのが「スタジアムと都市景観」というサブ・テーマでした。スタジアムという大規模建築が都市に出現してきた経緯とそれを実現させた技術の歴史を辿ることで、2020 年とそれ以降の東京の都市景観の在り方を考察しようというコンセプトです。

このコンセプトに基づき、都市デザイン史に詳しい今村創平千葉工大准教授にご協力を要請し、斎藤先生とお二人でシンポジウムの基調講演とファシリテーターをご担当頂く事になりました。続いて、2020 年とそれ以降の東京に焦点を当てたご発言を頂くパネリストの方々として、彦根茂氏、福島七郎氏、中分毅氏のお三方にご登壇をお願いする事としました。

彦根氏は 2012 年ロンドン・オリンピックでエンジニアリング会社として多くの役割を担った ARUP 社の元東京代表であり、“ロンドンから東京へのメッセージ”と言う観点でのお話を頂く事になりました。福島氏は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の会場整備局長として取り組んでおられる“東京大会での課題”についてお話を頂く事になりました。中分氏は日建設計副社長であり、“ポスト 2020 の都市デザイン戦略”という観点でのお話を頂く事になりました。

以上の通り、今回のシンポジウムは「2020 東京オリンピック・パラリンピックと都市景観」という大きなテーマに対して、様々な分野のエキスパートの方から多様な論点をご提供頂くという構成になりました。

② 集客活動などについて

冒頭に示した通り、今回の事前参加申込数は 300 を悠に超えていましたが、この 80%以上は 3 名以上の団体申込でした。団体申込の集客にご協力下さった皆様に改めてあつく御礼を申し上げます。ところで、この事前申込数は拝借したパナソニック汐留ビルのイベントホールの収容可能人数を超える勢いであったため、大人数での申込を頂いた幾つかの団体の方には、開催日直前に参加者数の調整をご相談し、ご協力いただくという前代未聞の出来事が起こりました。また、当該会場でのシンポジウム開催をご支援頂いたパナソニック・エコ・ソリューション社の皆様には、事前の関係者調整はもとより、当日の参加者の入退出管理及び館内誘導に大変なご尽力を頂きました。

お陰様で、無事にシンポジウムを開催することが出来ました事を、ご協力下さった皆様に改めて篤く御礼を申し上げます。

③ 後日談

本シンポジウムの開催時点では、幾つかのオリンピック施設の立地の見直しが進められていましたが、新国立競技場は当初案に基づいて整備される事になっていました。その後、7 月 17 日に新国立競技場の整備計画を白紙に戻しゼロベースで見直すことが発表されました。

景観シンポジウムに参加して

田口　淳

株式会社大林組

東京本店建築事業部営業部

日本建築美術工芸協会　法人会員

2013年9月に2020年東京五輪の招致が決まってから、「大会時にはどんな競技施設ができるのだろう」と、施設計画には大きな関心を持っていました。そんななか、今回のシンポジウムは、会社の先輩に勧められて参加しました。まず、数百人の参加者で埋め尽くされた会場にびっくり。「2020　東京オリンピック・パラリンピックと都市景観」というテーマの関心の高さをうかがわせました。

私は1966年生まれで、前回の東京五輪を知らない世代です。1964年の大会では、戦後の焼け野原からわずか19年で復興した東京の街並みと、我が国の建築デザインと施工技術に世界中が驚いた、と認識しています。また、首都高速道路や東海道新幹線、ホテルオークラやニューオータニなど、五輪を契機に都市インフラの整備が加速したことも特徴の一つだと思います。

今回のシンポジウムでも議論されていたように、2020年の五輪大会は〝成熟都市〟での開催になります。講演では、2012年のロンドンが五輪を再開発の起爆剤として活用した成功事例と高く評価されており、開催に際してさまざまな課題がしっかり検討され、国民の評価、満足度も非常に高かった、と紹介されました。

2020年までに必要な会場を整備し、多くの競技を安全かつ確実に実施することは、開催国である我が国に課せられた重大な責務です。その一方で、2020年を一つのゴールとしながらも、その先の東京のことを考えることも重要です。

少子高齢化や人口の減少、国際競争の激化など、将来の東京を表現するキーワードには、ネガティブなものが多いなか、東京は5年後に五輪という世界最大級のスポーツイベントを開催する大きなチャンスを得たわけです。これを活かさない手はありません。

私は、2020年の東京大会では、五輪後も長きにわたって新しい施設が若い世代だけでなく、高齢者やハンデを持つ方でもスポーツを通じて豊かな生活を実現できる場になると世界にアピールできれば、と思います。

新国立競技場や有明の体育館、辰巳のプールなどの五輪競技会場が、恒久施設として東京に整備されます。それぞれの施設が、アスリートたちの夢の舞台として残っていきます。数々の名勝負が生まれ、歴史を刻んでいくことでしょう。それだけでなく、次の世代のアスリートたちの憧れの場所となり、さらには高齢者が健康増進のために、またハンデを持つ方々でもスポーツに取り組むことができる場所として、機能と使い方を工夫することができれば、世界の人々にも新しい施設のあり方を提案できるのではないでしょうか。

パラリンピック選手の佐藤真海さんによるＩＯＣ総会でのプレゼンテーションは、私にとって印象的、というより衝撃的でした。彼女は、大学に入って（しかも私と同じ大学・学部）、骨肉種により右足を膝から切断。それでも、スポーツを通じて笑顔を取り戻したこと、故郷が東日本大震災の津波で大きな被害を受けた際、仲間と一緒に被災地を励まし続けたことを、真摯に語りかけました。彼女の一言ひとことが、世界の人々の大きな共感を呼んだと思います。

五輪競技施設が、若い世代に混じって高齢者やハンデを持つ方々でも気軽に使える場所となり、それぞれの立場の人々がスポーツを通じて交流することができる。同じスポーツを楽しむという共通点から、世代や立場を超えたより深い交流が可能となり、それぞれに刺激を与え合うことができる。さまざまな施設がそういう場になれば、とても素晴らしいことだと思います。

さらに、施設が思いもよらない使われ方で、地域の方々に貢献するケースもあります。

私は、かつて広報部門に所属しており、自社の社内報で「建物探訪」という企画に取り組みました。先輩たちが苦労しながらも知恵と工夫で難工事を克服した様子と、その施設が、数十年を経ても元気に機能し、利用者や地域の方々に親しまれている姿を伝える二本立ての構成です。

数回にわたるシリーズの中で、「国立代々木競技場第二体育館」も取り上げました。この工事は、短工期なうえに曲線を多用したデザインで現場は苦労の連続でしたが、1964年の東京五輪ではバスケットボール会場となり、その後もスポーツの殿堂となっています。

先日、行きつけの表参道の美容院で、担当の美容師さんがこんな話をしてくれました。

「いま『表参道コレクション』というヘアショーの準備でとても忙しいんです。原宿・表参道の美容院16店が参加する、年１回の大イベントなんですよ。会場となる代々木の第二体育館は、私たち美容師にとって〝憧れの舞台〟なんです」

原宿・表参道の有名サロンが腕を競う華やかなイベントは、今回でなんと16回目だそうです。代々木の体育館が美容師さんたちの聖地になるなんて、設計した丹下健三さんは想像すらしていなかったでしょう。

施設があれば、当初想定していなかった使い方が生まれてきます。後利用やレガシーの検討も進められていますが、2020五輪の施設たちが、地域の人々によって思いもよらない形で「新しい命」が吹き込まれることも、大きな楽しみです。東京は、世界をあっと言わせるポテンシャルとアイデアを持った街だと思います。

石垣　健

造形作家

COMA DESIGN STUDIO 主宰

形の科学会　会員

日本建築美術工芸協会会員

「かたちを奏でる記譜のすすめ」
— リズム，プロポーション，
モデュールを科学する —

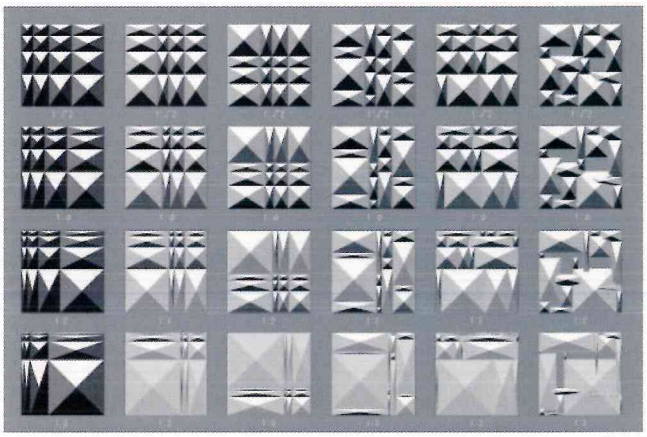
連日の猛暑にもかかわらず，たくさんの方にお越しいただき本当にありがとうございました.“形典・形譜”の発想のきっかけは，1967年に雑誌「デザイン」美術出版に1月号より連載中だった『ONOJIN』を知り，小野襄建築造形研究室に通い始めたことです.いま思えば，まだパソコンも無い時代に，美的形式の数理科学的検証を試みているように思えたのですから，好奇心をかき立てられたわけです．やがて，美的創造は物質性を越えたものと確信するなかで，芸術もデジタル化の時代を迎えます．当時の複製技術とITの劇的かつ広範な業種に及ぶ変革は，正に革命の悲惨さを伴うものでした．その渦中においても，文学は有史以来続く卓越した自然言語での創作ですから，言語学のような動揺もなく，著者（構成者）から読者（解釈者）への伝達ルール（文法）に変化はありませんでした．音楽芸術も，楽典の更新による広範な抽象的記譜法が定立されていたために,順風な対応が成されてきたように思います．では，美術界はどうでしょう．20世紀初頭に大いなる飛翔を果たした絵画は，その創造性に於いては未だに時代を超えた感があります．しかし，造形デザインの世界では，やや状況が異なりました．デザイナーから実制作者への橋渡しとなる記譜的表現，つまり，図面や版下などの相似性とアイコン的記号性とが，汎用プログラムで整然と分類されるようになり,“形典・形譜”（形の文法と形の記譜）から見た論理的基盤が，ユーザー側の認識が有る無しに関わらずアルゴリズム化され，汎用ソフトの活用によってその抽象化が客観的に実証されてきたからです．また，デジタル化による技術革新は，手業では不可能と諦めていたことを瞬時に可能とし，今では，２D・３Dの統合や異業種間のデータ互換（ポリゴン・メッシュ化）が押し進められ，学際的なデザインの連携が実現しつつあります．

つまり，文学や音楽と同様に，美術においても配列的記述法が定立され，グループ化された書式によるかたちの文書化が進行しつつあるわけです.今後は３Dスキャナーでの立体物の文書化や３Dプリンターでの複製が日常化します．文学や音楽が何世紀もの時をかけて探求し続けている文典（文法と語法）や楽典による構成的抽象（記譜）の探求が，造形美術ではその論理的認識や文化的位置づけもないまま，単なる情報やその売買として一気に拡散しているというわけです．

講演で述べたこれからの「かたちを奏でる記譜」…つまり“形譜”や“造形譜（人為形態）”は，

1　**イメージデータ**：ポリゴンメッシュデータ，図面，下絵，素描，言葉など．
2　**使用したモード**：造形形式，フォルム，モデュール（リズム，プロポーション等），属性（素材等）．
3　**特定条件**：要点，加工法，設置環境，附則等．

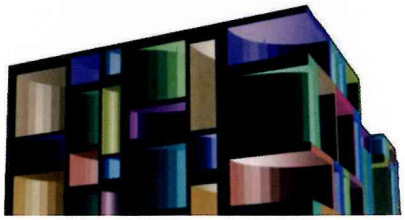
を記したもので，造形作家（composer）から造形家（performer）への伝達書類として位置付けられます．そして，これらの造形構成の形式分類は，パターン認識に基づく博物学レベルの分類（リンネの『自然の体系』Systema Naturae、1735年など）などを参照すれば十分と思われます．これらに，数理科学的知見が加われば，新たなパターンの認識と創出も可能です．もちろん，人為形態の分類も必要となります．



イメージチャートの一例．右端の構成は，完全方陣を使用

美的構成をパターン認識レベルで科学する方法の一つとして，リズム（移行的変位）とプロポーション（比例）の掛け合わせを，アイコンを使ったイメージチャートでご覧いただきました．このイメージチャートに対応した造形構成のバリエーションをご覧いただくことで，三種の数学的な配列モデルである順序，乱数，魔方陣のもつリズム的抽象の掛け合わせが具体化できることをスライドからご推察いただけたと思います．

“形典”の定立により客観化される“造形譜”は，真似や盗作等と言われずに,楽しく造形活動をシェアーできる社会を形成するはずです．



フィボナッチ数列と完全方陣によるプロポーションとリズム．

審査総評

３カ所の建築施工中の建物の内外にアート作品設置をするコンペ。内１番早い物件は、東京都江戸川区春江町の金魚の養殖場で、外構に１５名程の人が集うことの出来るスペースがある。他は、横浜市反町の賃貸マンションと、東京都墨田区向島の機械メーカーの事務所ビル。

手さぐりでの「第１回　街に飛び出す作品展」の審査会は如何なる方法で行われたか?
この作品展の作品募集は２０１４(平成２６)年７月より始まり、１０月２４日(金)搬入、１０月２７日(月)審査―施主様了解、１１月４日(火)搬出。

審査会は、選考委員に彫刻家米山雄一、建築家岩井光男、ガラス造形作家平山健雄と帛屋正が選考委員長を務め、選考を行った。
先ず選考委員は応募作品の送付されて来た、作品資料に目を通しどのような作品が来ているかを各自チェックし、その後各建物の見学を行った。春江町はほぼ完成し、どのような作品を置けば良いかのイメージは考え易かったかと思われたが、向島は建物の躯体は出来あがっていたが、空間の様子は良く解らない状況でおり、今年の６月設置の横浜のマンションは、工事が始まったばかり、しかし建物の模型が出来ており、設計者から仔細に説明があり、建物を理解することが出来た。建物を見学し終わって、審査員の感想は皆さん、作品と建物の関係性が見えてこない。ということは、空間にふさわしい、作品（特に立体）が足りないのではという意見があがった。一部出品していない作家に、作品を出してほしい旨お願いしたケースもあった。出品作家の方達に３物件の建築説明が十分されていなかった。時間的に余裕がなかったことが原因であった。次回は設置建物説明を行うことが非常に重要と考えた。

出品された作品はレベルが高いものであっても、建築空間に合わないということで選出されなかった作品もあった。この問題は建築家とアーティストとの話し合いがなされ、総合的に空間が豊かになることが優先され、決定された。
出品された作品を出来るだけ設置したいと、選考委員は考えたが、作品が空間に多すぎるのも如何なものかということで、外された作品もある。
出品作品の展覧会の中日にパーティと選考委員による該当作品を３建物の施主様に見てもらい、受け入れていただけるかどうかを検討する時間をつくった。殆どの作品は予定通り、理解をしめしていただき、納得いただいた。しかし中には好みのある施主様からは若干の変更を申し出された作品もあった。

最初に設置された春江町の外構作品は、施主は金魚の繁殖を業とする仕事で、そこの敷地内のミニパークに設置するにふさわしいと思われる作品を制作している作家に提出を依頼した。その結果は施主をはじめ関係者一同から大変良かったとの感想をいただきました。この写真はその後雑誌等でスターツ社の記事に多く取り上げられており、スターツ会員様達のアートと建物の考え方に刺激を与えている。

選考委員長　帛屋正

2015年6月19日　日本経済新聞掲載広告

「第１回街に飛び出す作品展」で３課題に選考され作品は「街なかミュゼ」という形で2014年12月から順次建物の竣工に合わせて設置された。「街なかミュゼ」は多方面から反響を頂き、2015年８月には第２弾として12物件に多くの作品が設置されることに決まった。本年度も「第２回街に飛び出す作品展」で３物件に作品選定実施と進行している。
「街なかミュゼ」は第3、第4弾と計画が立ち上がり「街なかミュゼ活動」に進化している。aacaの活動の大きな柱とし「アートが景観の与える役割」の具体化として増々の発展に期待したい。

aaca展覧会実行委員長　安河内敦子

aaca 街なかミュゼ活動　第１弾　実施報告

2014 春江町計画　2014 年 12 月設置　　ビル名：　セリシール

川原昭　優游
FRP　w1200×h1800×d800

鍵井保秀　GOLDE FISH
アクリル　インクジェット
w400×　h2200×　d100

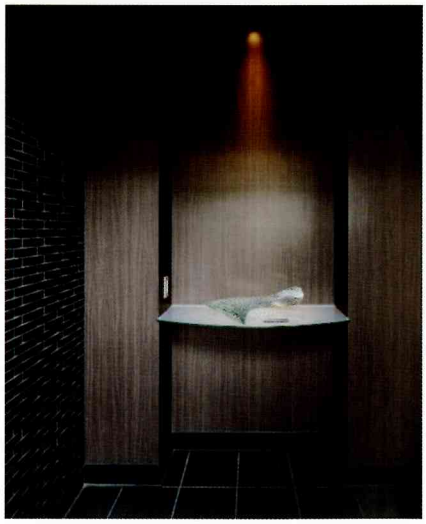
鍵井保秀　SWEET HEARTS
ポリエステル　インクジェット
w550×　h550×　d50

道路から災害用井戸のあるミニパークに設置されたアートを望む

2014 向島計画　2015 年 3 月設置　ビル名：ハイグロマスター

エントランスに設置されたアート作品

白野順子　地球の輝き
染織・キルト w1300×h1800

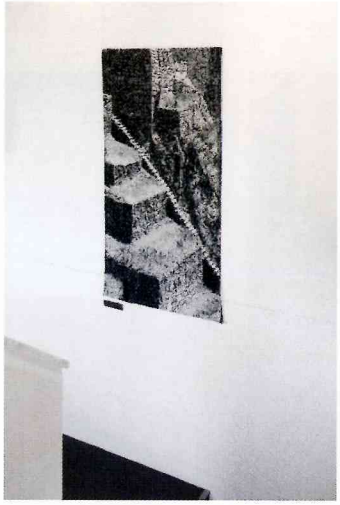


安河内敦子　シェル No. 3
ガラス w450×h200×d450

階段ホールに設置されたアート作品

山崎和子　Move on Time
染色　w970×h1620

山崎輝子　雨水（うすい）
牛革、金箔、顔料
w730×h145



中野恵美子
To　Where?　-　Machupicchu
綿、染織　w850×h1600

吉野ヨシ子　滴の詩
金属　w450×h700×d300

2014 神奈川区計画　2015 年 6 月設置　　ビル名：Novel　Paulownia

鈴木法明　ようこそ 21 世紀へ　種を播く人
チタン、ステンレス　w1400×　h2000×　d1300

野口真理　黄の中の風
陶土　w320～420×h460～630×d250～460

帆足枝里子　Scene4
FRP
W650×h500×d100

平山健雄　無題
ガラス　w400×h700

エントランスホールから設置アート作品を望む。

aaca 街なかミュゼ活動　第２弾　作品選考会報告

会場
江戸川区船堀タワーホール　バンケットルーム「蓬莱」
日時　2015年8月26日(水)
　　搬入・設営　　9:00～12:00
　　オーナー選考会 14:00～17:00
　　搬出　　17:00～19:00

出席者
aaca
選考委員長　乕屋正
選考委員　　米林雄一、山極裕史、平山健雄
展覧会部会　実行委員長　安河内敦子、村松映一
　　山崎輝子、鍵井保秀

スターツコーポレーション株式会社
関戸博高代表取締役副社長

スターツCAM株式会社
直井秀幸代表取締役社長
千坂真吾統括部長、福丸敦之、他多数
出品　47作品　選定された作品23点

選定作家名
池田嘉文、伊勢信子、井上勝江、大河内久子
小尾昌弘、川原昭、信ケ原良和、白野順子
平山健雄、野口真理、松本治子、三上紀子
安河内敦子、安原竹夫、山崎香文子
（五十音順）

選考会は午前中の作品搬入に続き、午後から各１２の建物物件ごとにそれぞれ展示された作品を、オーナーの皆様(欠席された方も数名)とスターツの皆様、aaca選考委員の三者で検討。出席している作家も加わって活発な話し合いがなされました。オーナーの方達の好みはもちろん選考委員の助言も含めて、江戸川地区の美的環境の創造への担い手として各建物の住環境に調和した作品や街なみに新鮮な言葉を投げかける作品が選定されました。
これらの作品は本年中に現地への設置を予定しています。　（選考委員　平山健雄）

星 素子
言葉アーティスト
Sun Face Japan.
日本建築美術工芸協会会員

自由な想像力で、漢字を、感じて。

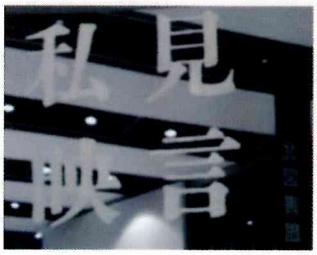
私は芸術活動として、“縦・横・斜め…自由に漢字を感じて”という概念（コンセプト）で開発した言葉アート素ことば（視覚詩・コンセプチュアルアート）を軸とする制作・展示やワークショップをしています。もともと日本大学藝術学部でアートと文芸の融合を志向していましたが、長年コピーライターとして言葉と真摯にむきあう日々のなかで、「どうして言葉だけは翻訳が必要なのだろう？」という問いが生まれました。そうして、言葉も音楽や絵のように人種や国籍をこえて楽しんでいただけたらという想いから探求と試行錯誤を重ねて、見方や読み方を限定しない循環する詩のカタチでもある〈素ことば〉に辿り着きました。海外での展示やワークショップでもヒントを添えるだけで難しい翻訳はいりません。必要なのは“想像する心”。私は活動を通して人間の“それ”を応援していきたいと願っています。

「型」からの、ブレイクスルー体験。

素ことばの基本要素は１つの型と４つの漢字から成りたつ簡素なものですが、そこには幼少時から親しんだ茶道の影響、とりわけ稽古での「型」を通して自然や調和の世界を感じたブレイクスルー体験が反映されています。作品（**※写真上**）に対面した人には「１番楽しかった記憶…子供の頃に家族とおむすびを食べた光景が浮かんだ」「僕には凄い達成感が感じられた！」「むかし空から口にした雪の味を思い出した」等、思い思いに想いや情景などを共感とともに伝えていただけました。同じ作品を見ても、人それぞれがもつ記憶や経験、感受性によって見えるものや感じることも異なることがわかります。皆さんは何をイメージされるでしょうか？また、ワークショップでは素ことばの「型」を活かし、テーマや場にあわせた「お題」をだします。その際、理由も伝えてもらうのですが、毎回どの参加者もイキイキと伝えてくれる姿が印象に残ります。言葉を表すギリシャ語「LOGOS」の語源には理由という意味もありますが、言葉の本質とは“理由を伝える”ことではないかとも感じます。**※写真（左）野外アート展での作品「風にゆれる素ことば」（右）都内小学生100名とのWS作品を配したインスタレーション作品「空は穴かんむり（空をみる装置）」**

「地域／コミュニケーション／パブリック」への展望。

言葉は、大きくも小さくもなります。制作においては皆にわかりやすく認識いただけるよう作字し版からつくることを好んでしていますが、手法や素材も様々で模索と開拓の連続です。また近年、「参加型」の作品づくりやワークショップの経験から“地域性”が現れることにも着目。参加者からは「自分の地域の良さを改めて気づけた」とのお声も多く寄せられました。普段とはちょっと異なるものの見方で楽しむ言葉アート。誰もが使う言葉だからこそ、広くみんなに親しんでいただけるような、人間交流（コミュニケーション）を大切にした制作展開をしていきたいものです。それには私自身も心を磨いていかなくてはと日々精進中です。**※写真（上）群馬県立近代美術館でのWS展示（左）さいたま市プラザノースでの個展（右）北海道での参加型展示／地域や学校の素ことばも制作**



中野献一

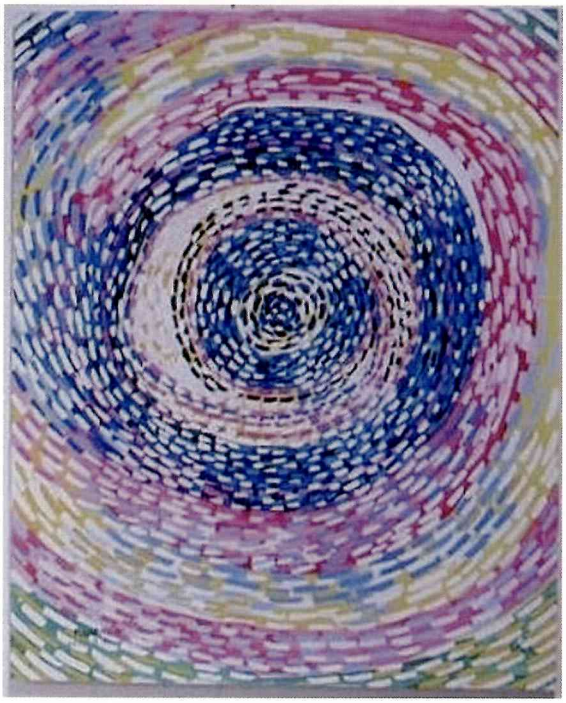
洋画家

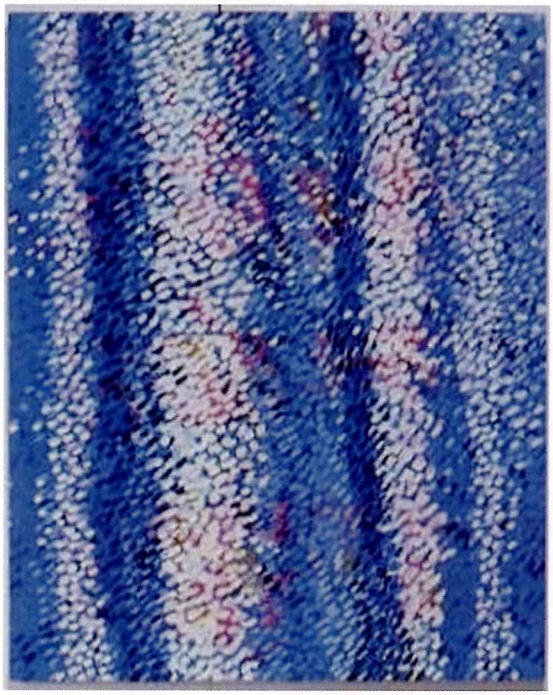
日本建築美術工芸協会会員

私は日本の高校を出てすぐフランスの美術学校に入り、パリ・南仏にて生活して参りました。　小さい時からフランス絵画の美に憧れ、どんな人種がどんな絵を描いてどんな事を話しているのか興味があって、結局15年間フランスで生活して参りました。　ヨーロツパ人との間に娘をもうけた事もあり、日本人との付き合いも殆どなくどっぷりとフランスの文化に浸って来ました。　しかしこの姿勢は戦いに近かったかも知れません。おそらく多くのヨーロツパのアーティストは、芸術活動は戦いという言い方に近いと私は思っています。この事を書くと長くなりますし、私は文字の表現はそんなに得意でもなく、つまり自己表現、自己主張は一種の戦いに挑む事だと思います。

幸い私はフランスに渡ってすぐ、ルーブル印象派美術館、現代美術館を見て思った事は、確かにヨーロツパ文明は素晴らしく、美しく尊敬すべきものがあるが「私の仕事、私の道」はあると自覚した事でした。

青二歳の私が思ったのは生意気かも知れませんが、今も変わらないです。





私は筆で色と形を表現していますが、やはり色彩は大事と考えています。音楽で言うとメロディーに近いかも知れません。　しかしただ色彩と言ってもこの奥は深く、何が美しいというのは毎日のテーマであり疑問でもあります。勿論私は東洋人でもあり日本人でもあるので、本質的には東洋が好きですし自分が一番リラックスできる場所です。先ほど述べたように制作活動は確かに己との戦いでもあるけれど、東洋にはほっとする何かが有るように思います。俗に言うと優しさとか寛容に繋がるかも知れません。人びとは摩擦を嫌いなるべく楽しく生活をしている人々の様に思われます。　日本ほど宗教も文化も違った人々が戦いもなく住める所は、世界には珍しいかも知れません。

すこしテーマが横にそれましたが、今まで私は日本の画壇・日本人のアーティストとは、全く交流を持たず友達もフランス人であったりオーストラリア人で、勿論アーティストであったりでした。

今回井浦さんに知り合いこんな機会に恵まれましたので一つの流れとして喜んでいます。

よろしくお願いします。

略歴

1951年　立川市生まれ
1971年　フランスのボザール美術大学留学
2001年　ニューヨークにて個展
2002年　帰国　フランスと日本で洋画を制作
2011年　ギャラリーアキエ、アリチにて個展
2015年　日本建築美術工芸協会入会
文化庁登録有形文化財「蔵館」館主　現在に至る

山崎和子

染色家

日展会友

現代工芸美術家協会本会員

日本建築美術工芸協会会員

多摩美術大学で油絵を専攻しましたが卒業後テキスタイルデザインを仕事にしていました。染色作家市村冨美夫氏との出会いで染色工芸美術の新しい世界を知り、その道を歩むことになりました。

染色の世界では友禅の手法を学び着物、帯、屏風、スカーフなどいろいろな小物を染める事と絵画的表現の作品をパネルでの制作をはじめました。

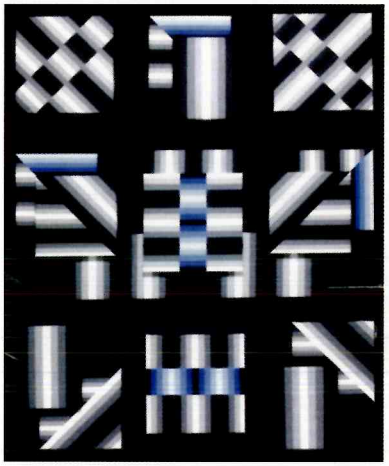
発表の場として、日展、現代工芸美術展などの公募展に出品することを、主な制作活動としています。

昨年aaca展覧会に参加させていただき会員になりました。新たな活動が増えて刺激を受けています。

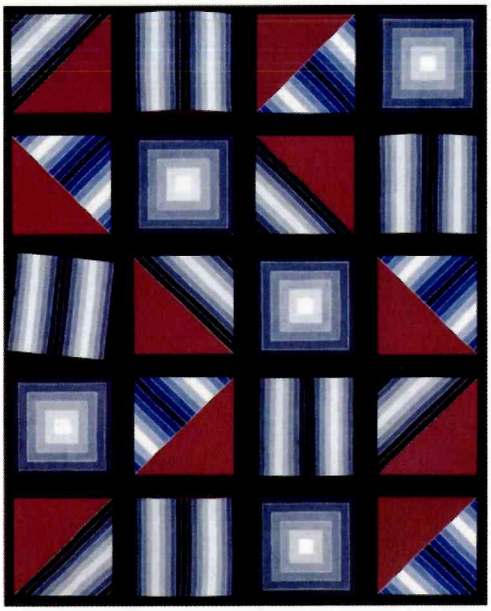
現在は＜時空間＞をテーマに錯覚から生まれうる現実にない次元を自由に感じられる世界を作り出す最大の表現が顔料でのグラデーションの構図とシンプルな色彩での方法に行き着きました。

敢えて布の持つ風合いとやさしさに相反するシャープな構図とシンプルな色彩での方法に行き着きました。敢えて布の持つ風合いとやさしさに相反するシャープな構図を考えて制作しています。まだまだこの先どう変化して行くのか、心を外に向けて自分自身が楽しんで変化して行かなければと思い、制作していきたいものです。

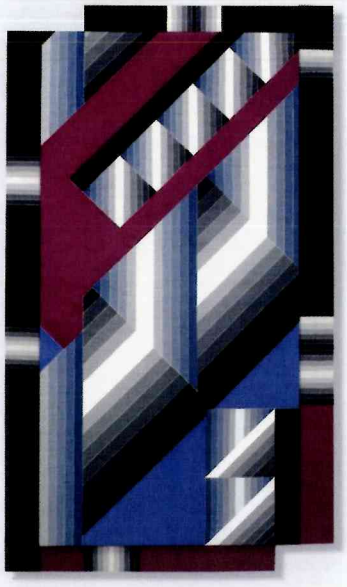
Fantasy Space



Time on Time '12



Time on Time '09



Time to Time '09

安原竹夫

画家

日本建築美術工芸協会会員

「あわい展」実行委員長

この展覧会はaacaの理念をベースにして、出品作家の作品（平面、立体）が建物の展示空間とコラボすることで、そこが意味ある空間になるか、その変容する様をみせたいこと、また、現在始まっている「街なかミュゼ活動」(aaca文化事業委員会企画）のプロジェクトにリンクしながら展覧会活動を展開していきたいと考えています。今回は会員作家＋一般参加の作家が出品する予定です。

・会期予定　2016年4月11日(月)～19日(火)
　　9:00～19:00
・オープニングパーティ　4月11日（月）18:00～
・会場　建築会館１Ｆギャラリー・イベント広場
・主催　一般社団法人　日本建築美術工芸協会
・企画　実行委員会　代表　安原竹夫
・出品者
　平面　河村純一郎・甲谷武・櫻井孝美・笹岡敏明
　　笹岡慶鳳・高島芳幸・長澤晋一・藤原和子
　　安原竹夫
　ガラス　中村弘子・平山健雄
　立体　今井伸治・小野寺恵美・児玉士洋
　　野口真理・野見山由美子・樋口恭一
　　吉野ヨシ子　（実行委員）

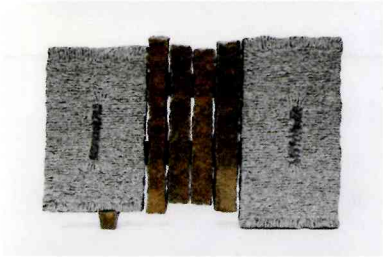
今回出品する一般参加メンバーの作品紹介

小野寺恵美
CLAY SPIRAL

φ1.5m　h0.6m
陶土　鉄板
高温焼成

長澤晋一
WALL2014

変形 200 号
パネル、キャンバス、黒浜、オイル、箔、他

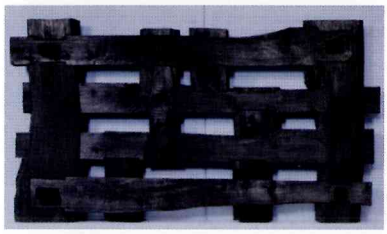


樋口恭一
歌。の様なもの

h30×w46×d10cm
黒御影石
鉄粉の腐食による彩色

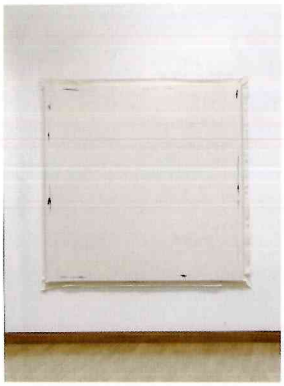
児玉士洋
風の記憶

h248×w100×d100cm
ステンレススチール、黒御影石



今井伸治
九つの窓

h2400×w4800×d250mm
木を焼成　組立て



笹岡慶鳳
花

60cm×150cm
絹本、箔、岩絵具

高島芳幸
用意されている絵画　May2014 －シカクニフレル－

h215×w215cm
綿布、コンテ、木炭、木枠、スレープル

尚、aacaの活動の活性化とこの展覧会の発展のためには、たえず新しい風が吹いていることが必要です。今後も継続していくつもりですのでよろしくお願いいたします。

木の魅力を伝える
日本建築の美とプロポーション（２）　（芝浦工業大学産学連携シンポジウムより）

今里　隆

建築家

元東京藝術大学客員教授
元日本建築美術工芸協会会員

前回、桧材の美しさについてお話しましたが、古建築は、木で造られています。つまり木造建築です。

湿気の多い日本では、長持ちするのは何と言っても木造建築だということは、約１３００年前の建物である法隆寺や薬師寺が美しい姿を留めていることが、証明しています。以前、薬師寺の廻廊に使われていたという古材をお茶室に使うために手に入れました。周りは真っ黒に劣化していましたが、一鉋削ると、桧のよい香りがしました。木は伐採され木材となってからも、生き続けているということがよくわかりました。建物の一部となった木材が、湿度の高いシーズンには湿気を吸収して、冬期の乾燥する時期には保存していた水分を発散して、湿度を一定に保ってくれるのです。現在のエアコン機能と同じです。正倉院が宝物を約1300年もの間、保管できたのは、この機能のお蔭でしょう。調湿機能は、日本建築に使用されてきた材料である和紙、畳、壁土等にも備わっています。日本建築は、建物全体が呼吸している状態なのです。ですから、建物が長持ちする為には、空気の流通をよくすることが大切です。古建築が長持ちしているのは、建物の周りに何もなく風通しがよいということもあるでしょう。

以前、奈良薬師寺の建築委員を仰せつかり、昭和・平成伽藍建築として玄奘三蔵院伽藍を建立する、その計画の監修に15年程携わっていました。絵殿の壁画を平山郁夫先生が手がけられ、その壁画がはめ込まれた平成11年12月末に、全体落慶となりました。絵殿の建物は木造建築で、その中で、平山先生の壁画を千年以上持たせるようにすることが、私に課せられた課題でした。

この建物には腰長押と天井長押があり、その間に、高さ約２メートル、幅５７メートルの壁画をはめ込む、どのようにすればよいか迷いました。

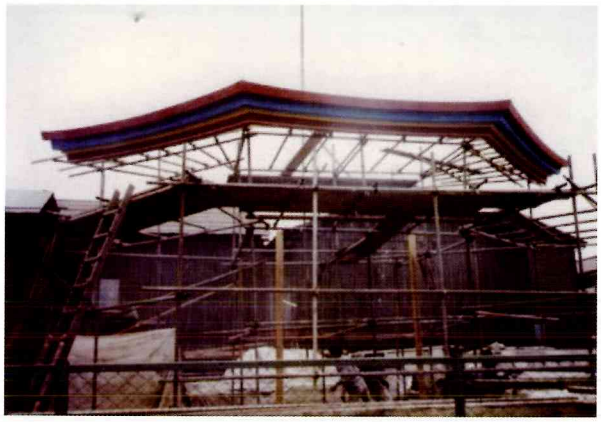
結局、襖仕立てとして後ろ側に湿気をとめる工夫を施し、壁から約３センチ位距離を開けて、はめ込みました。腰、天井、両方の長押の後ろ側に穴を開け、壁画の後ろに常に空気の流通があるようにしました。これは、法隆寺夢殿の絵殿のつくりにヒントを得たものです。建築会議の時に私が提案し、委員長の東京大学の太田博太郎先生とその他の委員の方々全員で、夢殿を見に行きました。考えていたとおり、絵は引き違いになっており、ムクの木が張ってある後ろの壁との間が、少し開いていました。引き違いがガタガタしていることによって空気が流通していたため、長年の間、絵殿の中の絵が持ちこたえられたことがわかりました。先達の技と工夫の凄さを改めて感じました。薬師寺の平山先生の壁画も千年以上持つものと確信しています。

木材になってからも生き続ける木にとって、育った環境はとても大切です。寒いところに育った木は寒さに強く、雨の多いところに育った木は湿気に強い、それぞれの育った環境に順応した性質を持っています。そのような木の性質を見定めながら、適材適所に使い分けをすることが大切です。例えば、桧、産地によってそれぞれ特徴があります。吉野の桧は脂気と粘りがあり、雨に強く弾力性もあります。木曾の桧は、脂気が少ないので、雨が染みやすいですが、木地がきれいです。台湾の桧は、脂気が多く堅いという特色があり、色合いが日本のものと異なります。産地による違いをよく知った上で、相応しい箇所に使うことが重要なのです。また、木材になる前の元の環境に近い状態で使うことが、建物を長持ちさせる秘訣でもあります。日の当たらないところで育った木を、日光のよく当たるところの柱にすると、ひび割れや風化が早く生じます。日の当たる場所には、日の当たる場所で育った木が相応しいのです。また先程お話した薬師寺の西塔を手掛けた西岡棟梁が「木が生えていた向きそのままに使うのが最もよい。」と言っておりました。元の環境に近ければ近い程、建築用材としても長持ちするということなのです。木には癖があります。過酷な自然現象、雨、風、雪、暑さ、寒さにさらされつつ成長を遂げるので、節や曲がり等が生じることがあります。癖を見定めながら、適材適所に使い分けることが必要です。古建築を見ると、正面のみよい柱材を使い、裏は節のある柱を使用しているものがあります。時の財政状態が芳しくなく、全体をよい材料で揃えられない時にそのような使い分けがなされたのだろうと思います。また、単に木材を適材適所に使うだけでなく、風通しや換気、水仕舞等に配慮を図って、木材の保存に悪い環境をなるべく排除することが、建物の耐久性を高めるのに必要なことです。私は作品を造る時は、納得のいく木材を見つける為に、吉野や木曾、台湾まで出かけています。ようやく見つけた木材が、思ったとおりの仕上がりになった時の満足感は、何にも替えがたいものです。

ここで建築家の仕事についてお話したいと思います。

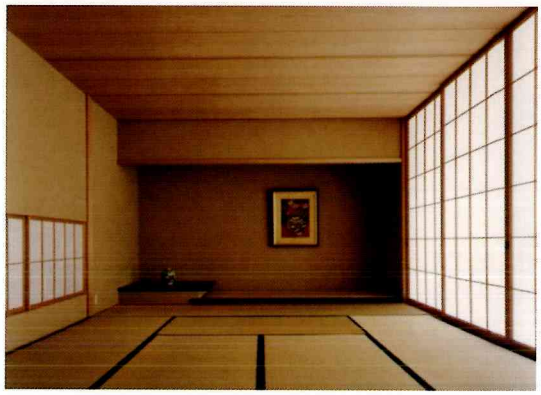
まず古建築から学んだ造詣感覚を、建物の設計空間に具体的にどのように活かしていくかをお話しましょう。私は美しいプロポーションを作る為に建物の重要なポイントとなる箇所、屋根のカーブ、床の間や窓や障子の意匠等ですが、その箇所の現寸模型を必ず造り、遠くからも近くからも眺めて、模型を少し削ったり足したりしながら、納得がいく形が出来上がるまで、検討します。

こちらは池上本門寺の御廟所を設計した時の写真ですが、このような現寸模型を造り屋根の形を検討しました。屋根の勾配は親指ほどの太さを持つ麻縄を水につけて弛ませて様々な曲線を作り、その中で一番よい曲線に決めました。



これが完成した池上本門寺の日蓮上人の御廟所です。

こちらは都心に設計した規模の大きな木造住宅です。



この住宅の和室の床の間は、このように現寸模型を造って、寸法を決めていきました。

このような作業を積み重ねて納得のいく形を作り上げる、古建築から学び、昇華させた自分の感覚を常に研ぎ澄ませて、全力で作品に取り組んでまいりました。建築家を志す皆様には、持てる力の全てを注ぐ丁寧な作品造りをしていただきたいと思っております。

材料の吟味は、建築家として非常に大切なことです。最近、すぐ色が変わってしまうような材料をよく目につく場所に使っている建物を見かけます。先程、作品に使う木材を探しに出かけるというお話をしましたが、木材だけでなく、これはと思う新しい材料が出ると、見本を取り寄せたり、ショールーム等に出向いて、実際に材料を手にとり、特性等も詳細に調べて吟味します。様々な建築用材がある今、それぞれの材料の性質、耐久性を熟知して、この環境にはこの材料で、この工法が最も相応しいと的確な判断を下せる力が、建築家として重要ではないでしょうか。

建築家の仕事は、建物を建てたいと思っている方の希望を現実のものにすることです。敷地に相応しい形を造り、最近では建築面積や高さ等の法的な制約が多くなりましたので、以前に増して難しさがありますが、作った形に施主の好みや希望を入れて間取りや詳細を決めて図面にする。工事が始まると、施工をする建設会社や工務店と打ち合わせをしたり、現場へ出かけて行って、工事の監理をする。それが建築家の仕事です。

お施主さんとの関係をよりよく保つのはもちろんですが、頻繁に現場に出かけ、棟梁を始め、左官、建具などの職人さんと、仲良くなることも大切です。一人一人が、持っているものを上手く引き出して、最高のものに到達させる。オーケストラでいえば、指揮者の役割を果たすのが、建築家です。建築に関する知識だけでなく、美術、歴史等、広い分野に渡る勉強が、必要であるし、お施主さんに信頼され、職人さん達に、この仕事は面白い、やりがいがあると、思ってもらえるような人間力も、要求されます。これから建築家を目指す方は、机の上の勉強に限らず、何にでも好奇心を持って挑戦し、様々なことを吸収していくことが大切だと思います。人間力は、建築家として大変重要な要素です。

最近、建築家の自己主張が全面に打ち出されたデザインで、人間の存在が全く見えない、「人間不在」の建築をよくみかけます。住宅で、どうやってここに住むのか、さぞ不便だろうと思われるものが見られます。私は、建築は人間が主体であるべきだと考えます。デザインの美しさと、人間が生活したり、芸術を鑑賞したり、ゴルフや食事をしたりする空間としての快適さ、この二つの融合が、建築のあるべき姿であると思います。特に住宅は、建築家がデザインを披露する場ではなく、また人に見せるものでもなく、あくまでも住む人が快適に暮らす為のもので、デザイン的に際立つものはなくても、住む人、そこを訪れる人への配慮が行き届いている家がよい家だと思います。つまり「人間本位」という本質を、若い建築家達に改めて考えてほしいものだと思っております。

都会では規制があって、余程広い敷地がないと、木造住宅は難しくなりましたが、心地よい住まいという点では木造にかなうものはないでしょう。コンクリートで、強固な箱を造る。外観は環境に溶け込んだものとして、内部はワンルーム、木造をはめ込む形にし、子供の成長に合わせて、中の仕切りを変えていく。これからの住宅は、何代にもわたり住めるようにすることが、大切だと思います。このような形であれば、子供が独立して、夫婦二人の生活になった時は、広々とした空間に変えて、ゆったりと老後を楽しむ。内部を木の美しさを楽しめる日本建築にすることもできるのです。

今、日本建築が殆ど造られなくなった為に、古来より脈々と受け継がれてきた技術が残っていくのは、社寺建築だけという可能性が多い現状です。技術を継承していくことは大切なことだと思います。日本建築の技術、知恵、美意識、そして建物を造る棟梁や職人達が大切にしてきた、探究心や、辛抱強さといった精神性を含めて、次世代を担う若い方々に伝えていけるような環境造りができればよいと思っております。しかし日本建築を建てるという需要がないことにはなかなか難しいものがあります。効率性が優先される時代の今、工程を積み重ねて、丹念に造って行くことの重要性を再認識する、その意味でも、日本建築を後世に伝えていくことは大変意義のあることと考えます。

洋風建築では味わえない日本建築の魅力を多くの方々に、特に建築家や建築に携わる仕事を目指す若い方々にわかっていただき、日本建築を後世に伝えていく、それと同時に伝統的日本建築に新しさを加えた現代に活きる本格的日本の建築様式を確立するまでが私の夢であります。最近「和風」という言葉をよく耳にしますが、「和風」という言葉に象徴される和の要素を加えた偽者の建築ではなく、伝統的日本建築の規範の上に立つ美しさを基にした、新しい日本建築を目指していきたいと思います。その夢に向かってこれからも努力、精進してまいります。

今日、お話したことによって、少しでも日本建築、そして木の魅力について興味をお持ちいただけましたら幸いに思います。　（完）

略歴　1928年　東京に生まれる
1949年　東京美術学校（現東京藝術大学）建築科卒業
1949～64年　吉田五十八（日本芸術院会員、東京藝術大学名誉教授）研究室勤務
1964年　杉山隆建築設計事務所創設
1988年～91年　東京藝術大学客員教授
著書　「屋根の日本建築」NHK出版
「建築用木材の知識」鹿島出版会
「次世代に活きる日本建築」市ヶ谷出版
DVD「今里隆パーソナリティと作品」日刊建設通信新聞社

二井　進
造形作家
日本大学生産工学部　教授
日本建築美術工芸協会会員
調査研究部会　部会員

本年度も第79回新制作展が開催されAACA会員の作品も数点発表された。
調査研究部会の活動の一環として新制作展を観覧した。

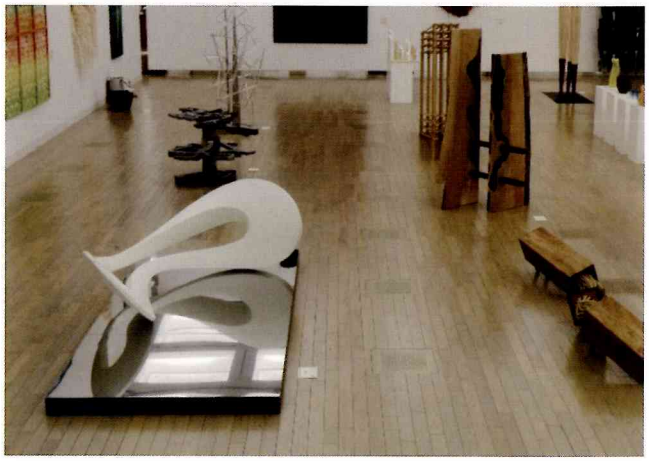
新制作展は来年度80回を迎える。
この間大戦による中断もあったがその時代を表すさまざまな表現形式を求め発表してきたと思う。
扱う素材についても石、木材、金属、布、樹脂、紙等原材料から加工を施した材料まで、また生活雑貨から廃材料までと幅広くこの時代ならではの素材を見ることが出来る。
作家は作品を通して作品にメッセージを込めている。
自然から、生活（年中行事、衣食住・・）から、文化（游、芸、道）から、信仰から、その他様々なものから影響を受け、それらを糧とし現代を生きる姿を形に表してきた。
3.11東日本大震災など自然の力に対して人の生きる力を表した作品も数多く見ることが出来た。
時代とともに時代を表すことが表現者としての使命と考える。
展覧会は美術館という抽象的な空間ではあるが、作品達が特別な存在ではなく、生活の中にあるかたちとして、街角に、建物の、風景の一部として在ることが大事なことと思う。

ここではAACA会員の方々の作品を会場風景とともに数点掲載させていただいた。

手前：野口真理氏「まるく　ひそむもの」

南氏（調査研究部会長）と説明をする小野行雄氏
「Pentagonal Sundial」

左：澄川喜一氏「そりのあるかたち　2015」
右：雨山智子氏「時を刻む－森の声」



手前：二井進「回帰」
右上：田中遵氏「It`s true of the Twelve」

会員証

平成２７年度より、その年度の年会費をお納めいただいた会員に会員証をお送りしています。

会員証には、会員である証と、協会の理念に基づいた活動憲章が記載されており、会員の皆様方が社会で活躍される礎としての役割と信念を表しています。

今まで会員が会員としてのメリットはありませんでしたが、会員証を提示する事により具体的に有利な便宜を受けられるよう計画され、配布しております。

会員特典

９月１日現在、特典の受けられる店舗・美術館は下記のとおりです。

◎レモン画翠　御茶ノ水店
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-6-12　レモンビル
営業時間：平日10：00～20：00
土・日・祝日11：00～19：00
対象商品：水彩絵具・筆・スケッチブック他
画材・美術用品・額縁
設計製図筆記具・定規他　製図用品
割引：会員証提示により表示価格より20%OFF
ただし特価商品・書籍・加工サービスはは除きます。
アドレス：http://www.lemon.co.jp

◎文房堂　神田店（西武池袋店は除く）
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-21-1
営業時間：10:00～19:30　年中無休（年末年始除）
対象商品：文具・デザイン用品・ペーパー類
画材・版画・彫塑・絵手紙用品・額縁
割引：会員証提示により表示価格より20%OFF
ただし特価商品・書籍・加工サービスはは除きます。
アドレス：http://www.bumpodo.co.jp/

◎パナソニック汐留ミュージアム
〒105-8301
東京都港区東新橋1-5-1
パナソニック　東京汐留ビル４階
開館時間：午前10時～午後6時
（入館は午後5時30分まで）
休館日：水曜日（祝・祭日は開館）、
展示替期間、年末年始、
割引：会員証提示により入館料より100円OFF
アドレス：http://panasonic.co.jp

会報

会報は毎年７・１１・３月発行されています。

協会主催事業（通常総会・設立記念会・景観シンポジウム・講演会・フォーラム等）の報告を始め、会員からの寄稿による「時代の華一輪」「会員活動報告」を掲載しております。

◎会員からの寄稿文募集（無料）
・「時代の華一輪」
創作活動での特に研鑽されている事柄の紹介
・「会員活動報告」
創作作品の紹介や企業活動の報告
・「受賞報告」
協会賞及び他団体からの受賞報告

◎アピアランスの募集（有料）
個人・法人会員の活動広告のページを設けました。
毎号２ページで、１６～１７小間用意しております。
２小間以上も可能です。　費用は10,000円/小間
法人の企業広告・個人会員の作品依頼広告にご活用ください。

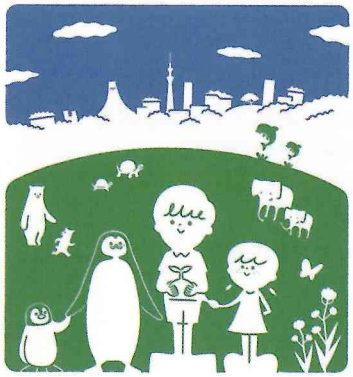
ホームページ

平成２６年度より、協会ホームページがリニューアルいたしました。従前に比べ大変読みやすいと評判です。内容も協会主催の催しの案内や報告、会員の皆様の活動や催しの案内、法人会員のバナー広告等、多岐にわたっております。ご活用ください。

◎会員主催の催しの掲載（無料）
会員の皆様が予定されている個展・グループ展の開催案内を掲載いたします。
法人会員が開発された新商品の紹介・企業展の案内等も掲載致します。

◎会員紹介ページの更新と新規掲載（無料）
現在、掲載されている会員紹介ページについて、初期の内容のままの会員が新たな内容に変更できるよう進めております。すでに掲載されている記事の更新、新たに掲載を希望される会員の皆様には、ホームページにある、会員活動→お問合せ→会員紹介掲載依頼を活用して事務局まで送信してください。

◎法人会員のバナー広告募集（有料）
法人会員の企業広告としてバナー広告のスペースを用意しました。企業名をクリックするとその会社のホームページが開かれます。
スペースは５社まで、費用は年間12,000円です。



地球に笑顔を

わたしたち大林組は、地球環境のことや、
そこに住むみんなのことを想いながら、
ものづくりと自然との調和をめざしています。
みんなの明日を、笑顔で満たすために。

OBAYASHI 大林組

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.

代表取締役社長 田中孝典

〒103-8542 東京都中央区日本橋小網町6-1 TEL:03-3249-1551

タイル・れんが・ルーバー工事
リニューアル事業
超高圧洗浄工事(JSS)
景環・エンジニアリング事業
不二窯業株式会社 代表取締役社長 川口勝彦
東京都中央区新富2-14-5
TEL 03-3551-7255(代表)
http://www.fujiyogyo.co.jp
FAX 03-3551-0118

KOYOU
総合備品レンタル事業
広友リース株式会社
建設ソリューション営業部／東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル4F
TEL:03-3587-1311 http://www.koyou.co.jp
全国に30ヵ所の営業窓口、10ヵ所の物流拠点で、全国どこへでも迅速にお届けします。
宅地建物取引免許 国土交通大臣(1)第8593号

窓を考える会社 YKK ap

YKK AP株式会社
http://www.ykkap.co.jp/

日本の安心を守りたい。
おかげさまで70周年 70th ANNIVERSARY
Think Next Security
MIWA
美和ロック株式会社
〒105-8510 東京都港区芝3-1-12 TEL:03-4330-3069(代) http://www.miwa-lock.co.jp/

自 NABCO 動

自動ドアといえばこのマーク
私たちはナブコです。

NABCO ナブコシステム株式会社
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1丁目22番15号 虎の門NSビル
TEL：03（3591）6411
http://www.nabcosystem.co.jp

新入会員・会員の異動・訃報　2015年7月～2015年10月（敬称略）

新入会員

個人会員

山中　涼	〒567-0036	茨木市上穂積4-3-7-10	TEL 072-623-1128	㈱涼樹園
中野献一	〒190-0004	立川市柏町3-8-1	TEL 042-536-2624	洋画家
本多　陽	〒103-8542	中央区日本橋小網町6-1　山万ビル	TEL 03-3249-1552	㈱山下設計
木村建一	〒359-1104	所沢市榎町13-21	TEL 04-2924-0717	国際人間環境研究所
山本俊介	〒235-0023	横浜市磯子区森6-36-40	TEL 045-751-0209	山本デザイン研究室
成瀬輝一	〒870-0936	大分市岩田町1-1-1　岩田学園内	TEL 097-558-4344	㈻岩田学園
成瀬嘉一	〒396-0014	伊那市狐島3941	TEL 0265-72-3082	
深谷俊則	〒300-0871	土浦市荒川沖東3-10-20	TEL 029-842-5341	
伊藤　愛	〒104-0061	中央区銀座1-23-2　GINZA上野ビル1F	TEL 03-5250-3667	㈱万画廊

法人会員

㈱エスエス		代表取締役社長　中平等　穣	担当　代表者と同じ
	〒150-0022	渋谷区恵比寿南1-14-3	TEL 03-3719-1140
㈱アール・アイ・エー		代表取締役社長　岩永裕人	担当　総務部　倉澤宏治
	〒108-0075	港区港南2-12-26	TEL 03-3458-0661
㈱スミノエ		代表取締役社長　谷原義明	担当　東日本開発部　清水康之
	〒141-0031	品川区西五反田2-30-4　BR五反田ビル	TEL 03-5434-2928

会員の異動

個人会員

はやしまりこ	氏名変更	川原　昭	TEL 047-377-3077	㈻エーアンドエム

法人会員

宇部建設資材販売㈱	住所変更	〒108-0075　港区港南1-6-34　品川イースト6F TEL　03-5781-7520　Fax　03-5781-7524

訃報

川岸梅和　10月16日逝去

日本大学生産工学部教授　（専門）建築・都市設計、生活空間・環境デザイン
協会会員(2009・5～2015・10)

會田雄亮　10月28日逝去

東北芸術工科大学学長(1998～2002)、東北芸術工科大学名誉教授、愛知県立芸術大学客員教授
協会会員(1989・12～2015・10)、協会理事(1991～2005)、AACA賞選考委員(第一回～第十四回)、
会報表紙掲載（2014年7月第68号・2014年11月第69号・2015年3月第70号）
1931年東京生れ。1956年千葉大学都市計画学科卒業。宮之原 謙に師事。渡米後 ボストン美術館附属美術学校講師。Bennington Potters Co. にチーフデザイナーとして勤務。
1965年日本デザイナークラフトマン協会（現 日本クラフトデザイン協会）理事、理事長を歴任。
1968年イタリアのファエンツァ国際陶芸コンペで金賞受賞（キャセロール作品）。
新宿三井ビル55広場（吉田五十八賞）、FANUC曙館、東京女子医科大学病院総合外来センター、

編集後記

このたび25周年を期して会報の構成を刷新し、表紙には会員の作品、内容も会員の皆様の活動や、一般の方々からの寄稿文等を中心に編集致しました。

会報編集部会は、会員の有志の皆さんで編成され、記事の収集から編集・発送まで協力して運営されています。

会員の皆様の作品紹介、活動報告、展覧会、個展・出品展等のご案内、企業の広告等を会報に掲載いたします。

詳しくは会報編集部会にご相談ください。

発　行　一般社団法人　日本建築美術工芸協会
発行人　会長　岡本　賢
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20　建築会館6階
Tel　03－3457－7998
Fax　03－3457－1598
Url　http//www.aacajp.com
E-mail　info@aacajp.com

編　集　総務委員会　会報編集部会
部会長　野口 真理
部員　飯田 郷介　石田眞人　竹生田 正
中村 弘子　山崎和子　山崎 輝子
事務局

印刷協力　美和野印刷株式会社